

# HOTeye

心と心のかよいあう福祉の情報誌

ホットアイ

2021 Vol.108

- P1 **【特集】** 社会福祉事業所紹介  
支え合いを“我がごと”として  
考えられるように  
社会福祉法人 北栄町社会福祉協議会
- P5 チャレンジ福祉の仕事  
社会福祉法人 北栄町社会福祉協議会
- P6 福祉専門職の紹介  
住民をつなぐ「生活支援コーディネーター」として
- P7 福祉人材センター情報  
鳥取県福祉人材センターのご紹介  
福祉の職場で働きたい方と  
人材を求める事業所との橋渡しをしています
- P8 ボランティア・市民活動センター情報  
とっとりボランティアバンク登録団体紹介  
「かめの泉」
- P9 ボランティア・市民活動センター情報  
鳥取県立境港総合技術高等学校  
「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」
- P11 ことぶき高齢者情報  
みんなで楽しく“きんさいや”
- P12 ことぶき高齢者情報  
いきいきシニア
- P13 鳥取県社会福祉協議会からのお知らせ

助け合い・支え合いの地域づくりのために





# 社会福祉法人 北栄町社会福祉協議会

北栄町社会福祉協議会では、住民が主体となって取り組む「助け合い・支え合い」の地域づくりを推進しています。

町の「生活支援体制整備事業」にもとづいて、地域・町・社協が連携し町内の組織・団体に構成される「ほくえい支え愛協議体」を設立した後、助け合い推進会議「よっしゃやらあ会」を設置して組織化しました。

そして、合併前の北条地区と大栄地区のエリア担当と町全域担当の3名の生活支援コーディネーターを配置し、支え合い活動推進を支援しています。

また、町と連携した「地域福祉推進計画」の策定とともに、厚生労働省の「重層的支援体制整備」にリンクさせながら地域福祉の充実を図る計画です。



※取材は感染対策を徹底した上で、撮影時のみマスクを外しています。

# 支え合いを、我がごととして考えられるように

北栄町社会福祉協議会は、地域福祉・介護保険・障がい者自立支援・保育所の各事業に取り組んでいます。

地域福祉活動では、1996(平成8)年に社協から町内自治会に呼びかけ、閉じこもりがちな高齢者や独居の高齢者などが、同じ世代の人やボランティアとの楽しい時間を

持つことで、生きがいと自立生活を促し、健康や心身機能の維持向上などを目的とした「いきいきサロン」を実施しています。



小規模多機能型居住介護施設「いろりの郷」と「栄保育所」が入る「栄交流センター」

現在では自治会・町・社協が連携して運営し、63地区の自治会のうち45地区の3分の2でサロンが開かれ、年間1,000回、参加者13,000人を超える社協の主要な事業となっています。

## 既存の助け合い活動を大切に

地域住民がかかえる課題が複雑・複合化する中で、子ども・障がい・高齢・生活困窮といった分野別の支援体制では、そのすき間のニーズに対応できない現状があります。その分野の垣根を取払い、世代などを問わず広く地域住民を対象とした支援体制を構築するために「重層的支援体制整備事業」が推進されています。

北栄町社協では、その中の「アウトリーチ(※)等を通じた継続的支援事業」と「参加支援事業」の委託を受けて取り組んでいます。金山英文事務局長は、「必要な支援が届いていないケースがあれば、社協の強みを活かし、アウトリーチにおいても他機関との連携を強化しながら、本

人との信頼関係を築くことを前提に取り組んでいます」と話します。

「重層的……」は、すでにある地域のつながりや支え合う関係性を大切にして、活動を応援することを基本としています。その点において、いきいきサロンをはじめ、ほくえい支え愛協議体とよっしゃやらあ会は、参加支援事業の下地となり、支援メニューや居場所づくり役に役立つと考えられます。

「新しいしくみや取り組みを生み出すことも必要ですが、そればかりでなく既存の部分はどう活用するかも大切です。とにかく、みんなやっつけていくというイメージです。私たちは、金山事務局長は笑顔を見せます。



社会福祉法人  
北栄町社会福祉協議会  
かなやま ひでふみ  
**金山 英文**  
事務局長

## まず声をかけ合い、気にかけて合うことから

よっしゃやらあ会は、2018(平成30)年に有志が集まって立ち上げ、北栄町の助け合いのまちづくりに向けて活動しています。会の活動は、月に1回メンバーが集まり、どんな町になると良いのか、どんな助け合いが

※アウトリーチ [outreach] (手を差しのべること) 福祉分野で、援助が必要であるにもかかわらず、自発的に申し出をしない人々に対して、公共機関などが積極的に働きかけて支援の実現をめざすこと。



※取材は感染対策を徹底した上で、撮影時のみマスクを外しています。

必要なのかなどを、自分たちのこととして考え、介護予防にもなる集いの場や、生活支援、見守りなど、意見を出し合って活動の協議・検討をしています。

生活支援コーディネーターで北条地区担当の前田悦子さんは、「私は日頃、地域に出かけ、住民と話をする機会が多くあります。その中で、移動手段の困りごとや、世代間交流ができる居場所があれば、という声をよく聞きます。そのような地域課題に対して、住民同士の支え合いで困りごとへの支援ができないか、会の皆さんと一緒に考えています」と話します。



生活支援コーディネーターの前田悦子さん

その具体的な取り組みとして、買物の移動手段の困りごとに対しては、2つの自治会に協力してもらい、福祉施設の空き車両を借りて買物に行くモデル運行を実施しました。前田さんは、「参加した住民は、買物に



「ほっこりひろば」の一場面

行く前日から、何をかうか考えた、何を着ていくかなど、当日の買物はもちろん、楽しく参加している姿がとても印象的でした」と笑みを浮かべます。

出かける場や交流の場所がもっとあれば、という声に対しては、自治会にこだわらず集まることのできる「ほっこりひろば」や「にじいろカフェ」もオープンしました。運営は、準備する人、参加する人を分けることなく、参加している人が、それぞれできることを手伝います。そこでは、「いろいろな話ができ、息抜きになつたりと、地域の中で助けたり、助けられたいの関係が自然とできていくよ

うです」と前田さん。  
また昨年、これからの北栄町の福







「北条よっしゃやらあ会」の竹原正純さん

社や暮らしについて、多くの住民から意見を聞き、町と社協の地域福祉（活動）計画を「一体的にまとめた」「北栄町地域福祉推進計画」が策定されました。それは、すべての住民が主体となり、地域が舞台となる計画となりました。そして、「声をかける」「気にかける」「そっと見守る」など、自分ができることを地域の中に少しずつ広げていくことが大切であることを共有できたと、前田さんは話します。

### 地域福祉の活動を 広げていきたい

「北条よっしゃやらあ会」の竹原正純さんは、定年をむかえて帰郷してから、地域に役立ちたいと考えていました。しかし、人のつながりが希薄になっていることに気づき、まず自分の住む集落で、支え合う気持ちがある人が集まると高齢者の居場所づく



「よっしゃやらあ会」の交流会

りを行い、さまざまな活動を続けていました。

そして、北栄町の「地域福祉推進フォーラム」への参加をきっかけに「北条よっしゃやらあ会」の立ち上げにかかわった中心的メンバーです。

会は有志による運営で、メンバーは増減しながら伸び悩み、前期高齢者から若手まで広がっていません。竹原さんは「会は3年目となり過渡期だと感じています。改めて関係者で話し合い、開催日時の見直しからボランティア希望者や幅広い年齢層に活動の輪を広げるために、違う角度からのアプローチで再確認をするときでしょう」と話します。

現状では、支え合うことへの理解が高まっておらず、支え合いへの取り組みの必要性を共有するところか

ら始める必要があります。「方向性は間違っていないので、地道に広めていくしかありません」と話す竹原さんですが、「北栄町社協のみんなは、よくやっていますよ」と、悲観的ではありません。

社協は、地域で暮らす人たちの生活や福祉の課題に、住民が主体的に取り組み、解決に結びつけられるよう支援しています。そして、地域のさまざまな社会資源を活かし、住民と協働して「地域福祉」の「しくみづくり」をすすめる「福祉のまちづくり」の推進役です。

金山事務局長をはじめ、北栄町社協の職員はみな、支え合いの意識を広げ、我がごととして考えられるを増やしていきたいと願っています。



#### 【概要】

- 所在地 鳥取県東伯郡北栄町瀬戸36番地2
- 開設日 2005(平成17)年10月3日
- 運営主体 社会福祉法人 北栄町社会福祉協議会
- 職員数 ●総務・地域福祉課：17名(生活支援コーディネーター3名)、栄保育所12名  
●介護支援課：居宅介護支援事業所4名、デイサービスだいえい16名、地域活動支援センターあゆみの郷3名、小規模多機能型居宅介護の郷13名、小規模多機能型居宅介護の郷12名、北条デイサービスセンター17名 計94名
- 活動内容 小地域福祉活動事業の推進、介護保険サービス事業、地域活動支援事業、介護予防事業、保育所事業
- 利用相談窓口 当該法人および施設



# Challenge チャレンジ福祉の仕事

社会福祉法人  
北栄町社会福祉協議会

福祉分野の質的变化や制度改革などにより、福祉施設などではさまざまなキャリアや資格をもつ人材が求められ、それに応じて働きがいをもって福祉の仕事に新たにチャレンジしている人たちがいます。ここでは、福祉分野の仕事に就労し、情熱を燃やしている人たちを紹介します。

## 高齢者との距離の近さが子どもを育む

「栄保育所」保育教諭 宮川 真弓さん



共生ホームは、小規模多機能型居宅介護施設「いろりの郷」の利用者と「栄保育所」の子どもたちが同じ施設内で過ごしています。以前は一般的な保育園に勤めていた宮川真弓さんは、ホームで働くのは初めてでしたが、高齢者と日常的に顔を合わせてあいさつをしたり、お互いの部屋を行き来し、一緒に歌を歌ったりできる環境を、とても温かく魅力的に感じています。

家庭や保育所での様子を互いに伝え合うことは、子どもの成長を共有するうえで、とても大事だと考えています。

いろりの郷の利用者は、子どもの笑顔を見て心地よさを感じ、子どもは利用者から「いい子だね」「上手だね」と、たくさん褒めてもらう経験を通して、宮川さんはとても魅力を感じています。

幼いころから自然に温かい雰囲気の中で育った経験は、他者への思いやりややさしさを身につける土台となります。また、子どもたちは日々かわる人たちとの直接的な経験を繰り返すことで、多面的に成長していきます。



「そんな瞬間をそばで感じることでできるのは、保育士だからこそだと思います。昨日までできなかったことができるようになったり、自分たちから周りの人にかかわろうとする姿を見るたびに、喜びと感動を味わえ、この仕事をしていてよかったと思えます」と話す宮川さんは、「先生、楽しかったね」と満面の笑みを浮かべてくれる子どもの表情が何よりも大好きです。

野廣浩美さんは、共生ホームの「栄保育所」で、保育士として勤務していましたが、昨年からは同じホーム内の小規模多機能型居宅介護施設「いろりの郷」で、利用者の支援の仕事をしています。

保育所では、肢体不自由児の子どもが、保育所の生活になじめるよう援助をしていました。その子どもとても親しかったいろりの郷の利用者が入院したとき、一緒にメッセージカードを贈りました。その方は、そのメッセージを励みにして治療を頑張っているとのこと、野廣さんは「自分でできること、人の力になれることは何か」と自問したと話します。

そんな保育所でのさまざまな出会いは、野廣さんの考え方に変化を与えました。それは「答えは一つではないと気づき、物事を色々な角度から見られるようになり、寛容さが生まれてきた」といいます。

共生ホームは、子どもたちと高齢者の方々とのかわりが深く、子どもたちの声が聞こえる、なごやかな雰囲気にも包まれています。「日々の活動や行事で子どもとかわることで、高齢者の方が役割を持ち、頼られることがよい刺激となり、生活にメリハリが



できます」と野廣さん。

「楽しんで仕事をするって、いつも学ぶ姿勢を忘れないこと」を心掛けている野廣さんは、介護の経験はまだまだ浅いと自覚し、先輩や研修で学びながら、介護技術の修得に努めています。また、とても多くの経験をきた利用者にも学びながら、みんなを笑顔にすることを大切にしています。

最近では、利用者や家族から困りごとや不安を打ち明けられるようになり、「聞いてもらって良かった、いつもありがたう」といわれると、この仕事について良かったと嬉しく思います」と笑顔を見せる野廣さんから、保育所での経験を胸に、利用者の方に伝えたいという想いが伝わってきます。

小規模多機能型居宅介護施設「いろりの郷」  
介護職員 野廣 浩美さん

## 働く場所が変わっても、変わらない想いで





# 福祉専門職の紹介 生活支援コーディネーター

住民をつなぐ「生活支援コーディネーター」として



社会福祉法人 北栄町社会福祉協議会  
生活支援コーディネーター **小谷 理恵**さん

「生活支援コーディネーター」は、住民一人ひとりが住み慣れた地域で、自分らしく暮らせるよう、支え合いのある温かい地域づくりと、生活支援介護予防の体制づくりをします。そのために、地域にある様々な福祉資源と高齢者の生活課題(困りごと)の把握から、サービスの開発やその担い手の発掘育成・支援とネットワークづくりで、ニーズと支

援策のマッチングなどを行います。

生活支援コーディネーターの仕事の内容、やりがいや魅力は何ですか？

地域の集いの場やいきいきサロンなどの活動支援のほか、買物やゴミ捨てを手伝う「あつたかまごころサービス」の利用者とボランティアのマッチングなどを行っています。また、住民主体の地域づくりを話し合う場「大栄よっしやらあ会」の活動で、集いの場「にじいるカフェ」をオープンすることができました。地域外からも参加者が増え、その中で90代の女性が、女学校時代の友人と再会することができたり、集う場ができたことで、みんなが楽しそうにしている姿を見ると「良かったなあ」と喜ばしく、やりがいにつながっています。

「この仕事についてよかった」と思うのはどんなときですか？

地域活動支援センターで相談支援をしていたとき、精神障害がある利用者が「自分にパンの販売ができるだろうか」と悩んでいまし



企画中の高校生と地域の人との絆プロジェクト「おしゃべりHOUSE」のリハーサルをする小谷さんと高校生

たが、いまでは立派に勤めています。支援にかかわった人が、自分の力で前に進み、新しい場所で頑張っている姿を見ると、とてもうれしく、社協で仕事をして良かったと思います。

仕事をする中で大切にしていることは何ですか？

住民をつなぐ「生活支援コーディネーター」として「フットワークは軽く、人の話しはしっかりと聞くこと」を心がけ、相談を受けたら考える前に動き、本当に何を望んでいるのかをくみ取ることを大切にしています。

いま、「コロナ禍で高齢者の集いや体験ボランティアができない中で、福祉教育として何かできないかと考え、小中学生に二人暮らしの高齢

者の動画を見てもらい、メッセージを贈ってもらう企画を進めています。助け合いの輪を広げることは簡単ではありませんが、新しい切り口で可能性を拓く、地道な努力を重ねるしかないと考えています。



「よっしやらあ会」のメンバーと打ち合わせ

休日は何をして過ごしていますか？

休日は朝のうちに掃除をして、その日の気分で部屋の模様替えをして、気分転換をしています。模様替えが好きなので観葉植物も大切にしています。また、子どももそんなに手がかからないので、夫婦で地元の名水の里をめぐって汲んで帰り、お茶やコーヒーを楽しんでいます。

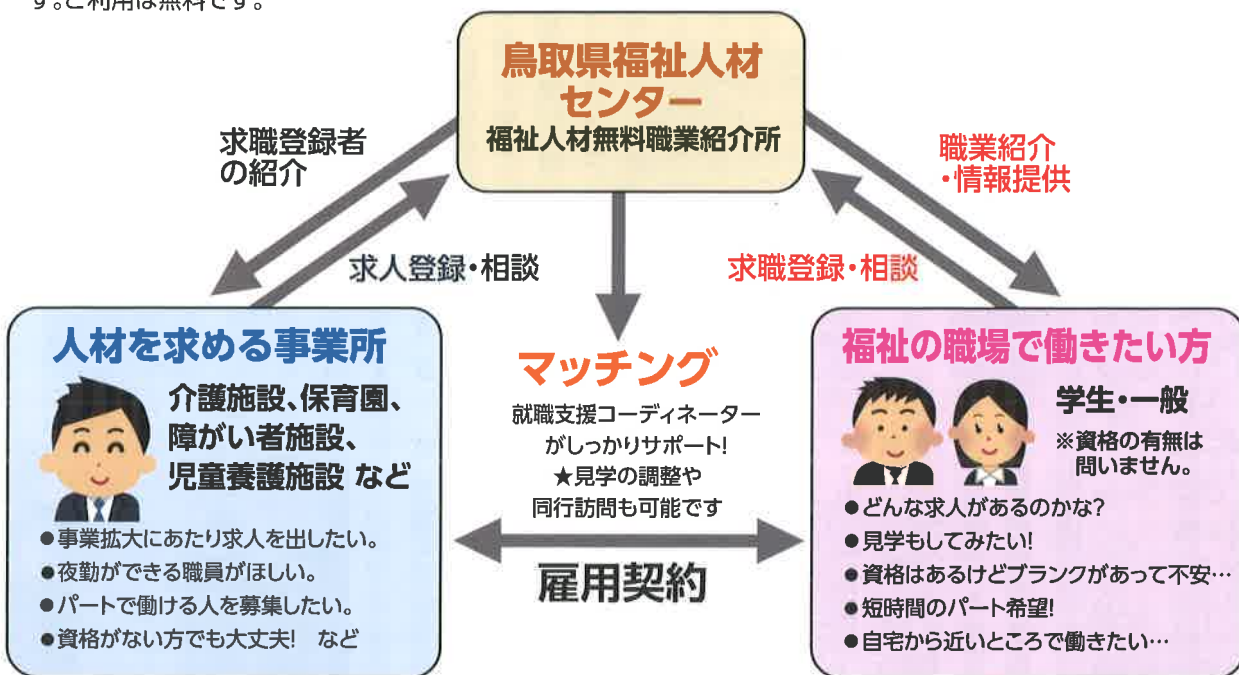
## 鳥取県福祉人材センターのご案内

# 福祉の職場で働きたい方と 人材を求める事業所との橋渡しをしています

鳥取県福祉人材センターは、職業安定法に基づく無料職業紹介事業（厚生労働大臣許可）をはじめ、福祉人材の確保・育成・定着に関わる総合的な取組を行っています。【無料職業紹介事業許可番号13-ム-010001】

### ■無料職業紹介事業

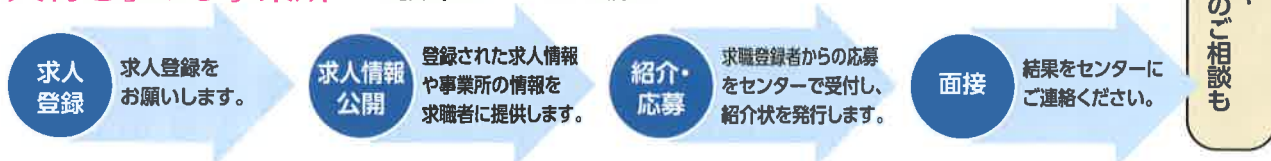
福祉の職場で働きたい方、求人情報を知りたい方には、求職登録や職業紹介、求人情報の提供を行ないます。また、人材を求める事業所には、求人の条件に該当する求職登録者の紹介など、求人者と求職者双方のニーズに応えます。ご利用は無料です。



### 福祉の職場で働きたい方への職業紹介の流れ



### 人材を求める事業所への就業あっせんの流れ



まずはご相談ください!

鳥取県福祉人材センター

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5 TEL (0857) 59-6336 FAX (0857) 59-6341

【開設日】月～金 8:30～17:00 (祝日、年末年始は除く)

専用サイトで求職・求人登録・求人票の閲覧ができます。

福祉のお仕事

福祉のお仕事

検索





# とっとりボランティアバンク 登録団体紹介

## 「かめの泉」

ボランティア活動に関心を持っている方が活動に参加する「きっかけ」を提供するため、県内の生活支援を中心としたボランティア活動や災害ボランティア活動情報を速やかに入手し、発信する場として『とっとりボランティアバンク』があります。

その中でも、ボランティアとともに活動したいという登録団体を紹介します。

[ホームページ] <http://www.torivc.jp/>



旧上小鴨駅跡周辺の花壇と会長の粹島さん

倉吉市を中心に活動している「かめの泉」は、高齢者のひきこもりや孤立を防ぎ、交流の居場所を設けたいとの想いから、発足して7年目になります。その活動は多方面にわたり、当初から高齢者との交流を通して食文化の伝承に努めながら、交流広場「あなたと私の待合所」を運営し、孤立を防ぎ、認知症予防やオレオレ詐欺の予防にも役立っています。

また、子どもの貧困の連鎖を防ぐため、ひとり親の子どものほか共働きの家庭の子どもたちのために、食文化について学びながら楽しむ子ども居場所づくりや、無料学習塾「碎隊塾」で学習支援もしています。

そして、旧上小鴨駅周辺の花壇の整備やトイレ清掃活動を続けるほか、お手玉の会、謡の会、論語の会との協力で交流を広げ、手芸（刺繍・マスク作り）、料理やちまき作りなど、地域住民や団体を巻き込みながらさまざまな文化活動の輪を広げています。

かめの泉会長の粹島和江さんは、「あなたと私の待合所では、高齢者が生き生きととして、とても元氣な姿が見られます。ほとんど寝たきりだ



長年続けている旧上小鴨駅跡にあるトイレの清掃活動

## 集い、語り合う仲間がいるということが大切

議室で音読、コーラスと学校で教えない英会話ワンポイントレッスンなどが行われています。

つた女性が90歳を過ぎて通って来られ、生きがいとなっている刺子を楽しんでいた姿は、理想的な余生の過ごし方ように思えます」と、皆さんが前向きで、素敵な高齢者の集いの場になっています。ことをとても微笑ましく思っています。



毎月1回福祉センターで開かれるためになる、多彩な交流会

「人生は出会いと別れが大切だと思います。特に一人ひとりが歩んできた歴史があり、語り合うことで生き生きと目が輝いています。子どもたちとの集いでは、聞かせてあげたいという高齢者の意欲が生まれるので、「コロナ禍が終息すれば大人の、自慢話を開きたいですね」と粹島会長。

集い、語り、いつも夢を実現する、健康法としても、仲間がいるということがとても大切だということが、現在26名の会員の想いです。



倉吉市福庭自治会公民館長の土井承夫さんは英会話ワンポイントレッスンを担当

いまはコロナ禍で、ほとんどの活動を休止していますが、毎週月曜日には、障害福祉サービス事業所「あずさパン工房」で作られた100円パンの販売をしています。また月水金曜日には待合所を開所し、コーヒーお茶での交流会、刺子・マスク作りと農家の穫れたて野菜の販売のほか、毎月第3火曜日は、待合所の前の福祉センターの大会

「かめの泉」  
会長／粹島和江  
【問合せ先】  
鳥取県倉吉市西倉吉2008-110  
TEL(0855)28-15365  
FAX(0855)28-09888  
携帯090-95507-60223(粹島)

※取材は感染対策を徹底した上で、撮影時のみマスクを外しています。

港総合技術高等学校「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」

人・地域との関わり合いを学び、  
誰もが生きやすい共生社会の実現を目指して

全国の高校生が手話の正確さや演出力を競う、全国高校生手話パフォーマンス甲子園(以下手話パフォーマンス甲子園)。第8回となる今回、鳥取県立境港総合技術高等学校(以下境港総合技術高校)は出場53チームの中から予選通過し、10月3日の本大会への出場が決定しました。その日に向けて福祉学科福祉科(こども福祉類型コース)の皆さんの手話パフォーマンス甲子園に懸ける想い、そしてボランティア活動をとおして福祉に取り組み姿を取材しました。

ひとの笑顔が力となって

境港総合技術高校福祉学科福祉科(こども福祉類型コース)では、地域の福祉を支える人材の育成を目指し、保育や介護・障がいについて専門的な知識・技術を学んでいます。また、授業以外にも地



左から郡さん、秋田さん、藤田さん

域のボランティア活動に積極的に参加し、人との関わりや地域に貢献するコミュニケーション能力の醸成を図っています。そこで3年生の郡美葵さん、秋田晴さん、藤田菜花さんに集まっていたいただき、身近なボランティア体験や交流学習などから学び、感じている「ボランティア」の魅力についてお聞きしました。

郡さんは、皆生トリアスロン大会や1枚帆ヨットで競うレーザ級世界選手権にボランティアで参加した経験から「外国の選手との交流やたくさんの方と関わりから多くの価値観に触れることができ、短い高校生活のなかで自分自身の視野が広がる貴重な経験だった」と振り返ります。さらに視覚障がいの方への朗読ボラン

ティアを続けている藤田さんは、境港市社会福祉協議会の会報「こだま」を読んでいる録音する活動を続けています。「社会の一員として活動することで人の役に立っていることや楽しさを学び、誰かに感謝される嬉しさがある」と地域に貢献することの素晴らしさを実感しています。

また、これまでボランティア経験の無かった秋田さんは、いろいろなボランティアに参加することで「ありがとう」が助かったという言葉と笑顔に、自分が力になれると実感し励まされてきたそうです。「ボランティアを体験して、人の笑顔って力になるんだと感じた。ひよっとしてボランティアの魅力はそこなのかも」と笑顔で語っ



手話パフォーマンス甲子園大会出場の皆さん

てくれました。

「今できること」を信じ、  
新たなアクションを  
起こして

コロナ禍が続く様々なイベントが中止となるなか、自分たちに何ができるのだろうと考え、鳥取の人を笑顔にしたい、地域の人を



鳥取県ボラセン  
キャラクター  
「はーちゃん」



## 鳥取県立境



笑顔にしたい」と、生徒たちは新たなアクションを起こしました。以前から交流のあった遊び歌デュオ「ロケットくれよん」と一緒に仲良しキャラバン隊を結成。鳥取県内の観光名所を巡り、「コロナ禍でも自宅で楽しんでもらいながら県内の親子や地域の方々を元気づけられるようなダンス動画を制作しました。動画制作にあたり、最終目的としていた、鳥取県の平井知事と一緒にダンスを踊りたい」とのリンクエストが叶ってダンス動画「とっとりにつくりわらってる」が遂に完成。子育て王国とつとりの動画チャンネル「みんな子育て動画チャンネル」で配信されています。

ます。笑顔にしたい」というきっかけから「元気を届けたい」という思いを集めた挑戦が実現できたことは新たな自信を生み、手話が誰にでも親しめる言語になれば、と更なる願いを込めたアクションへ繋がりました。この願いを届けたいと一致団結し、仲間と励まし支え合いながら表現力を高めたパフォーマンスは手話パフォーマンス甲子園の出場決定へと実を結んでいます。

「これまでの福祉科では手話パフォーマンス甲子園を目指そうということは当たり前のようにあった。でも、今回は自分たちの力で出場したい」と自らの強い意思により動き出そうとする生徒たちの熱意を感じた」と話すのは、生徒たちを指導する橋井麻紀教諭。その熱意を汲み「自分たちの体験したこと、学習したことを活かして、誰もが認め合う共生社会を伝えたい」という思いと生徒たちの個性を認め合うような台本が出来上がった」と振り返ります。生徒たちの企画案から作り上げられた演題「笑顔で2時50分!!」のパフォーマンスを繰り返し確



左から堀江教諭と橋井教諭

認しながら生徒たちの全体の動き、一人ひとりの表現力に磨きがかかるようにと力の入った指導が行われてきました。

### 手話が誰にでも親しめる言語になることを願って

秋田さんは「最初は出場することが目標だった。今は1年从这个まで一緒に頑張ってきた仲間との絆や練習してきた成果を発揮して更なる上を目指し、形として残したい。これまで私達を励まし応援してくれた方々の期待に応えるように楽しく、そして笑顔あふれるパフォーマンスとなるように全力で頑張りたい」と手話パフォーマンス甲子園に懸ける想いを語ってくれました。生徒の皆さんのそれぞれの想いが集まって同じ目標へと向かって頑張ろうとす

る気持ちのモチベーションが上がっています。



練習風景

今回の取材から、手話パフォーマンス甲子園大会を目指す全国各地の高校生達によって、手話言語が誰にでも楽しめる言語として手話の聖地、鳥取県から全国に広がっていくことを願っています。さらに障がいの有無にかかわらず互いの個性を認め合おうとする中で、誰もが生きやすい共生社会の実現を願うメッセージが多くの人に届いていくことを望みます。

**第8回全国高校生手話パフォーマンス甲子園は、10月3日オンラインで開催され、境港総合技術高校は日本財団賞を受賞されました。**

## みんなで楽しく“きんさいや”



岡森委員長

八頭町では、旧小学校校区を単位とした地区ごとに地域福祉の拠点である「まちづくり委員会」を設立し、行政や町社協の支援を受けながらそれぞれ特色ある地域福祉活動を行っておられます。そのうちの「つ下私都（しもさいや）」地区まちづくり委員会（愛称：きんさいや）の委員長、岡森裕さんにお話を伺いました。町老連会長も務める岡森委員長は周囲からの信頼が厚く、地域のみなさんが何でも相談出来る存在です。

きんさいやでは、「みんなで支え合い、住み続けたい下私都」「コミュニティの再創生」というスローガンのもと、各種活動が行われ、その活動の中で柱となっているのが「きんさいやカフェ」です。毎週木曜日に開催され、いきいき百歳体操をはじめ、多種のレクリエーションを実施しておられ、百

歳体操は筋トシのためそれぞれの体力に応じた重りを付けたり、規則正しく呼吸出来るように8拍子の歌を口ずさみながら行うなど、様々な工夫をされています。その他にも、研修旅行やみんなで歌を歌ったり、楽器の演奏会が行われたりと週替わりで様々な内容があり、みなさん楽しく参加しておられます。

このような活動を続けることで、参加者の体力年齢が実年齢より平均10歳近くも若くなっており、この事がいい刺激になり意欲も沸き、病気で歩けなくなりリハビリに通われていた方が、6か月ほどで歩けるようになったなどの成果もあり、みんなで一緒に継続して活動することの大切さを実感しておられます。



重りを付けていきいき百歳体操

また、夏休みなどの小学生対象の勉強会や、幅広い年齢層が参加する納涼祭など様々な活動をしておられます。新型コロナウイルス感染症拡大前は、毎月1回地域で収穫した食材を持ち寄り委員のメンバーのみなさんが当番制でメニューを考えて作る「きんさいやランチ」も大好評でした。現在、コロナ禍できんさいやランチは休止を余儀なくされていますが、「以前のようにならぬかいいご飯を食べてもらいたい」と再開を心待ちにしておられました。

最近では、家庭用テレビゲーム機を委員会で購入され、見たことも触ったこともない機械に悪戦苦闘しながら、みなさんが笑顔でミニゲームを楽しまれています。現在は試験導入中ですが、家庭でもお孫さんと共通の遊びを一緒に楽しむことが出来たり、認知症予防にも繋がる新たな取り組みだと感じました。

### テレビゲームを体験された方の声

前土居さん（80代男性）

ゲーム性があり本気になって楽しめておもしろく、気楽に誰でも

参加出来るので取り入れることは良いことだと思つ。  
横野さん（80代女性）

今までやったことのない変わったゲームで、難しくなく体も動かせるのでとてもよかったです。家では出来ないことなのでこんなのがちよくちよくあると、参加する楽しみにもなる。



ミニゲームで盛り上がる様子

コロナ禍のため一時期は中止されていたきんさいやカフェですが、これらの活動は、出来るところから、出来る範囲で工夫しながら、前向きに取り組んでいくことが必要だ」と岡森委員長。これからも行政や社会福祉協議会などと連携を図り地域全体で協力し、誰もが安心して暮らせる元気で住みよい下私都地区になるよう、充実した取り組みを続けて欲しいと思います。



## 90歳を超えても元気に趣味を楽しむ

いきいき  
シニア

ことぶきレポーターの取材より

県内の素敵な高齢者を  
同世代のことぶきレポーターが取材をします。  
「シニア」の「シニア」によるシリーズ。  
地域で頑張っている人、生きがいをもって暮らしてい  
る人など高齢者の魅力を余すことなく紹介します。



籠を作成する三村さん

スポーツや竹細工に「活躍中で、倉吉にお住まいの三村美重子さんにお話しを伺いました。」

初めてお会いした三村さんは、ピンクのTシャツ姿がともお似合いで若々しく、「91歳になった」とお聞きして耳を疑いました。自宅

のそばに菜園があり、様々な花や大葉などの野菜を育て、その野菜で料理も楽しまれており、菜園は三村さんのお気に入りの癒しの場所となっているそうです。

三村さんは、若い頃から民謡や陶芸などに親しんで来られたそう  
で、今では「地域のグラウンドゴルフと竹細工が楽しい」と話されています。グラウンドゴルフは約17年間、日曜と祭日を除き毎日参加しています。「地域の方とのお付き合いは和気あいあい、ゲームも楽しく、いい運動で知らず知らずのうちに体力も付き健康的」と語られています。

一方、竹細工はプロ級で、80歳の時に生涯学習の竹細工教室に入門され、始めて10年程になるそうです。花入れや盆、籠、バッグなど、複雑な編み模様の作品を作られており、作品を作っているうちに面を主にする作品、木口を主にする作品と趣も異なり手法も難しくなりま  
す。編み方も、六つ目編み、鉄線編み、麻の葉編み等と様々な技法で奥が深く際限なく広がっていき、材料の竹ひごも多く必要になります。  
竹は8月から10月頃が切り時で、三村さんの実家の山から教室の仲



三村さんの作品

間と竹を切り出して竹ひごを作り  
ます。竹に必要な長さに切断し小  
さく割り、何種類ものサイズの竹  
ひごがたくさん作られています。  
竹ひご作りの道具も幅用カッター、  
厚み用カッター、面取り加工用カッ  
ター、こて等仲間同志で使いやすい  
よう工夫し改良されていました。  
沢山準備されている竹ひごの中に  
は15ミリ幅のほそい物などもあり、  
大変な作業だと気の遠くなる  
思いでした。今でも教室に月に2回、  
ベテランクラスとして出席され仲  
間同志で意見交換をし、作品の形、  
編み模様など研究して意欲的に取  
り組んでおられます。

出来た数々の作品は、友人や時

には作ってほしいという人にあげて喜んでもらうことが、次の作品作りの意欲や日々の過ごし方にも繋がっているように感じました。この意欲、気力、想像力には本当に關心させられ、物事を始めることに年齢はない、と勇気づけられました。仕事場でお話を伺っている間にも、道の向こうから「えみちゃん」と手を振って呼ぶかわいい声、近所の2歳の小さなおともだちからも慕われています。

お元気でおしゃれにも気を配り、前向きで明るい雰囲気、三村さん地域の方や沢山のお友達との心豊かな交流がうかがえました。温かいご家族、友人に囲まれて「今幸せ」と顔を輝かせておられます。

これからもお元気で、日本の素晴らしい伝統工芸作品を心ゆくまで作り続けられる事を願っています。

取材を終えて一言

米田 陸栄さん(倉吉市)



三村さんが、穂やかで充実しておられるのは、意欲的に取り組む趣味や家族、仲間との交流を大切に過ごされていることだと教えられました。

## 鳥取県福祉研究学会 第15回研究発表会 研究発表募集

## 【学会からのメッセージ】

何度も試行錯誤を重ね、ようやく生み出される成果があります。少し視点を変えるだけで思いがけない発見をすることもあります。

私たちは、皆さんのこうした努力を応援し、専門性やノウハウを共有して、鳥取県の福祉社会の発展向上を図りたいと思っています。

研究発表は、社会福祉に関わる活動、研究等を行っている方が日頃からの成果を発表する場です。また、それは「自らを試し、自らを磨くこと」に他なりません。

皆さんの意欲的なチャレンジをお待ちしています!!

## 1 発表対象者

鳥取県内に所属・在住する福祉に関する業務に従事している者、福祉に関する調査研究している者、その他福祉に関心を持つ団体・個人

## 2 募集内容

(1)口述発表(奨励賞の該当区分)・・・分野別の発表を募集します。あらかじめ指定された時間内に、発表者が研究成果を口述により発表するものです。※基本的には会場にて発表をいただきますが、オンラインでも発表可能です。

No	分野	研究発表例
1	高齢者福祉(施設系)	介護、高齢者虐待防止、認知症ケア、地域密着サービス、生きがい対策等
2	高齢者福祉(在宅系)	
3	障がい児・者福祉	生活介護、生活自立訓練、就労支援、社会参加促進等
4	児童福祉	児童養護、保育、情緒発達支援、母子・父子家庭支援 児童虐待・DV防止等
5	地域福祉	地域福祉計画、住民福祉活動、福祉教育、ボランティア等
6	その他社会福祉領域	共生型ホーム、生活保護、成年後見、権利擁護、企業CSR、食育等

(2)ポスター発表(奨励賞の非該当区分)・・・分野を分けての募集はしません。

## 3 研究募集期間/ 令和3年8月2日(月)～令和3年12月8日(水)

鳥取県社会福祉協議会ホームページ(<http://www.tottori-wel.or.jp/p/common/gakkai/>)に詳細を掲載しておりますのでご確認ください。

## ●お問合せ・申込み先

福祉人材部(鳥取県福祉研究学会事務局) TEL(0857)59-6336 FAX(0857)59-6341

## とっとりボランティアバンクにご登録ください

ボランティア

の力を  
借りたい  
を  
してみたい

そんなときは…  
とっとり  
ボランティア  
バンクに

ご登録  
ください!



誰かのために  
力になりたい!

ボランティア  
したいけどどこで  
募集してるの?

ボランティアと  
一緒に地域を  
元気にしたい!

ボランティアの  
力を借りたい!

ボランティアバンクでは  
こんなお手伝いをします

ボランティアの  
活動調整

ボランティアを募集する  
方と、活動する方との調  
整を行います。

ボランティア活動  
に関する情報提供  
(メルマガ)

登録された方に、ボラン  
ティア募集やボランティ  
アに関する講座・研修な  
どの情報をメールなど  
で提供します。

ボランティア活動  
に関する相談受付  
ボランティア活動に関す  
る困りごと、お悩み、助  
金の申請方法など、何で  
もご相談ください。

ボランティアバンクに  
登録いただくと…



ボランティア  
したい人  
(団体)

県内外のボラン  
ティア募集やボラン  
ティア関連講座・研修  
などの情報を受け取  
ることができます。



ボランティアの  
力を借りたい  
団体

とっとりボラン  
ティアバンクのHPやメル  
マガを通じてボラン  
ティア募集やボラン  
ティア関連講座・研修  
などの情報を発信で  
きます。

登録したいと思ったら…

下記ホームページから登録いただくか、登録票に必要事項を記入のうえ、ファクシミリもしくはEメール、郵送にて送付してください。登録票は下記ホームページからダウンロードいただくか、お問い合わせ先にご連絡ください。

ホームページアドレス <http://www.torivc.jp/>



●お問い合わせ・ご相談 福祉人材部 鳥取県ボランティア・市民活動センターまで TEL0857-59-6336 FAX:0857-59-6341



令和3年度

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

全国200万人加入!! 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

# ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料 (1名あたり)

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術保険金	入院中の手術		65,000円	
		外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円		
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		
年間保険料			350円	500円	

商品パンフレットは  
こちら



(ふくしの保険  
ホームページ)

団体割引 20%適用済 / 過去の損害率による割増引適用

<基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

**ボランティア行事用保険** (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

**送迎サービス補償** (傷害保険)

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

**福祉サービス総合補償**

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

(引受幹事  
保険会社) 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
TEL: 03 (3349) 5137  
受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03 (3581) 4667 FAX: 03 (3581) 4763  
受付時間: 平日の9:30~17:30 (12/29~1/3を除きます。)

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

# HOTeyeギャラリー

## NPO法人 アプローチ来夢(多機能事業所) 作品紹介



作品はあいサポート・アートとっとり展(米子、倉吉、鳥取会場)にて、12月4日より期間限定で順次展示されます。

仲間といっしょに活動を通して自分を育む場所という理念で、月に2回余暇活動をしています。主に自立訓練(生活訓練)事業で軽作業や買い物、調理実習、生活介護事業でグループ活動として、創作、写真、お茶、音楽療法、健康教室、リトミックダンス、スポーツ、余暇活動など行なっています。



### 作品作りコメント

今年度は年度始めからじっくりと大きな1つの作品をあいサポートの作品コンクールに向けて作ろうと取り組んできました。こんな世の中で、いろいろな我慢や苦しみがある中で、叫びたい気持ちをあらわせる、でも、決して暗い事ばかりじゃないと、色味など工夫して明るいイメージも感じて貰えるように利用者6名と職員3名により取り組み完成しました。



## 社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内)  
URL <http://www.tottori-wel.or.jp> e-mail [soumu@tottori-wel.or.jp](mailto:soumu@tottori-wel.or.jp)

福祉人材の  
求人・求職  
の窓口です

### 鳥取県福祉人材センター

TEL.0857-59-6336 FAX.0857-59-6341  
URL [http://www.tottori-wel.or.jp/p/jinzai/shigoto\\_top/](http://www.tottori-wel.or.jp/p/jinzai/shigoto_top/)  
e-mail [jinzai@tottori-wel.or.jp](mailto:jinzai@tottori-wel.or.jp)

ボランティア活動の  
幅を広げる  
活動を応援します

### ボランティア・活動支援担当

ボランティア担当 TEL.0857-59-6336  
福祉・教育担当 TEL.0857-59-6344  
FAX.0857-59-6341  
URL [http://www.tottori-wel.or.jp/p/jinzai/vol\\_top/](http://www.tottori-wel.or.jp/p/jinzai/vol_top/)  
e-mail [vc@tottori-wel.or.jp](mailto:vc@tottori-wel.or.jp)

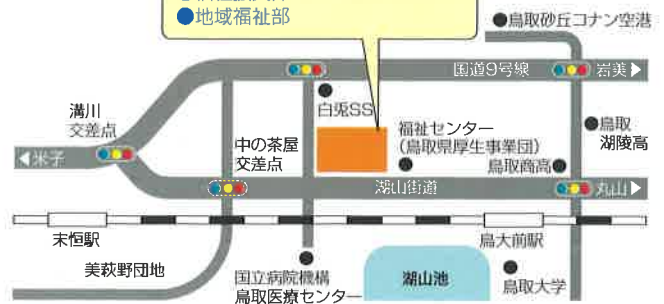
元気な高齢者の  
生きがい・社会貢献  
を支援します

### 明るい長寿社会づくり推進事業担当

TEL.0857-59-6332 FAX.0857-59-6340  
URL <http://www.tottori-wel.or.jp/p/chiiki/kotobuki/>  
e-mail [kototori@tottori-wel.or.jp](mailto:kototori@tottori-wel.or.jp)

### 県立福祉人材研修センター

- 鳥取県福祉人材センター
- 福祉振興部
- 地域福祉部



本誌について、また、福祉に関することについて  
県民のみなさまからの御意見をお寄せください。



「HOTeye ホットアイ」第108号/令和3年 月 日発行

発行/社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会 〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内) TEL.0857-59-6331 FAX.0857-59-6340

印刷/日ノ丸印刷株式会社